

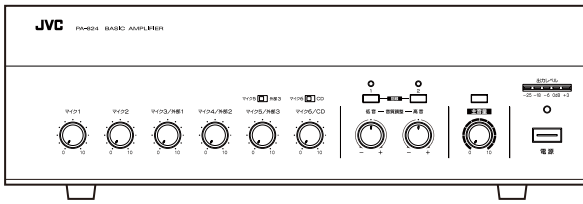
JVC

取扱説明書

ベーシックアンプ

定格出力 240 W

PA-824



—お買い上げありがとうございます—

ご使用前に、この取扱説明書と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。

特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上、重要なものです。

お買い上げの際は保証書と本機背面の製造番号が一致しているかお確かめください。

目次

安全上のご注意 [免責事項についてお願い]	1~3
各部の名称とはたらき(フロントパネル/リアパネル)	4、5
各マイク入力ジャックについて	6
端子カバーのはずし方	6
アナウンスミュート回路について	6
接続のしかた	7
スピーカーの接続のしかた	8、9
非常時音声遮断について	10
電源起動について	10
100系入力端子について	11
別売4音チャイムユニット (DM-4) の取り付けについて	12
(チャイム起動) 端子について	13
ノイズ対策について	13
困ったときには	14
仕様/外観寸法図	15

安全上のご注意

必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめ、販売店などに連絡する

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに使用を中止し、販売店などにご連絡ください。



工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。



分解/改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない/濡らさない




水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



⚠ 警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

<p>定期点検を実施する 専門の業者（技術者）による定期点検を実施してください。特に経年劣化には充分ご注意ください。異常があれば、ただちに使用をやめ、販売店などにご連絡ください。</p>	
<p>通風孔をふさがない 通風孔をふさぐものをのせたり通風を悪くすると内部に熱がこもり火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐためケースに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 ○本機を横倒しや逆さま、あお向けにする。○本機を押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。 ○テーブルクロスを掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用する。</p>	
<p>表示された電源電圧以外の電圧で使用しない 火災・感電の原因となります。</p>	
<p>雷が鳴り出したら、アンテナ線、スピーカー線や電源プラグには触れない 感電の原因となります。</p>	
<p>この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。</p>	
<p>この機器の上でろうそく等の炎が発生しているものを置かない 火災の原因となります。</p>	
<p>電源コードを熱器具に近づけない コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p>	
<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線）販売店などに交換をご依頼ください。</p>	
<p>電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。定期的電源プラグを抜き、乾いた布などで拭きとってください。</p>	
<p>電源プラグは根元まで確実に差し込む 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。</p>	
<p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。</p>	
<p>不安定な場所に置かない 落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p>	
<p>重量に耐える取り付け、設置をする 取り付け、設置の場所や方法が不適切な場合、落下や転倒などでけがの原因となります。取り付けは販売店に依頼してください。</p>	
<p>上面・側面は5cm以上の間隔をおいて設置する 内部に熱がこもり火災の原因となります。また、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、すきまをあけてください。</p>	

⚠ 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

<p>湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない 火災・感電の原因となることがあります。</p>	
<p>電源を入れる前には音量を最小にする 突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。</p>	
<p>お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く 感電の原因となることがあります。</p>	 <p>プラグをコンセントから抜く</p>



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

火災の原因となることがあります。



プラグを
コンセント
から抜け

本機を電源コンセントの近くに置いて使用する

万一の事故防止のため、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにして使用してください。



濡れた手で、電源コードを抜き差ししない

感電の原因となります。



移動するときは、コード類を傷つけない

火災、感電の原因となることがあります。移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。



プラグを
コンセント
から抜け

この機器に乗ったり、ぶらさがったり、足場代わりにしない

特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



廃棄は専門業者に依頼する

燃やすと化学物質などで目を傷めたり、火災ややけどの原因となります。



ポリ袋は処分してください



テレビ、オーディオ機器、ビデオ機器、スピーカーなどの機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。又接続が終わりましたら必ずスピーカー端子盤カバーを取り付けてください。感電の原因となることがあります。



1年に一度は内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。



設置・使用上のご注意

- 入力線と出力線は近づけずと発振する恐れがありますので、できるだけ離して配線してください。
 - 直射日光の差し込む場所、温度の高くなる所には設置しないでください。また、湿度・ほこり及び振動の多い場所に設置すると故障の原因となることがあります。
 - 本機を雑音発生の原因になる機器*の近くには設置しないでください。
- *高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- ①お客様の故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など
- ②本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
- ③本製品のお客様ご自身による修理、分解または改造が行われた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害
- ④本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

本機を長期間お使いの場合は

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。

- ・外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記①～④の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちに電源を切り(使用中)、販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。

特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

- ①煙りが出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。
- ②電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。
- ③本機に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- ④電源を入れても音が出ない、その他の異常・故障がある。

各部の名称とはたらき/フロントパネル

回線2選択スイッチ

回線2側に接続されたスピーカーに放送する場合はこのスイッチを押してください。

回線1選択スイッチ

回線1側に接続されたスピーカーに放送する場合はこのスイッチを押してください。

マイク6/CD切換スイッチ

使用する入力側に切り換えてご使用ください。

マイク6 CD

マイク5/外部3入力切換スイッチ

使用する入力側に切り換えてご使用ください。

マイク5 外部3

左側面ファン通風孔

内部温度の上昇により、ファンが動作します。上面・側面は5 cm以上の間隔をおいて設置してください。

マイク1音量調節つまみ

マイク1入力ジャックに接続されたマイクの音量を調節します。アナウンスミュート機能付です。(6ページのアナウンスミュート回路についての項を参照)

マイク2音量調節つまみ

マイク2入力ジャックに接続されたマイクの音量を調節します。

マイク3/外部1音量調節つまみ

外部1/マイク3入力ジャックに接続された機器の音量を調節します。

マイク4/外部2音量調節つまみ

外部2/マイク4入力ジャックに接続された機器の音量を調節します。

マイク5/外部3音量調節つまみ

マイク5入力ジャック、外部3入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節します。

マイク6/CD音量調節つまみ

マイク6入力ジャック、CD入力ピンジャックに接続された機器の音量を調節します。

回線1動作表示灯(緑)

回線1スイッチを押すと、緑色に点灯します。

回線2動作表示灯(緑)

回線2スイッチを押すと、緑色に点灯します。

出力レベル表示灯

出力レベルの表示をします。緑色(-6 dB~-25 dB)と黄色(0 dB)表示内が適正範囲です。連続して赤色(+3 dB)で点灯しないように各音量と主音量を調節してください。



電源表示灯(緑)

電源スイッチを押すと緑色に点灯します。

電源スイッチ

押すと電源が入ります。また、電源が入っていない状態でも待機のための電力を消費します。

主音量調節つまみ

各入力のミキシングされた音量を調節します。

チャイム起動スイッチ

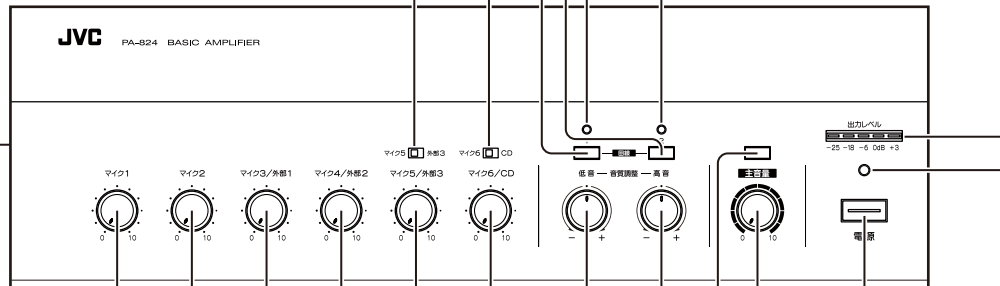
(別売の4音チャイムユニット組込時)
このボタンを押すとチャイムが鳴動します。

高音音質調節つまみ

右回りで高音が増強され、左回りで高音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。

低音音質調節つまみ

右回りで低音が増強され、左回りで低音が減衰されます。中央のクリック位置が標準です。



各部の名称とはたらき/リアパネル

スピーカー出力端子カバー

このカバーを取りはずすと内側にスピーカー出力端子台があります。スピーカーを本機に接続される時は、このスピーカー出力端子カバーをはずしてください。スピーカー出力端子台の接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。
(6ページ「端子カバーのはずし方」参照)

電源コード

電源プラグをAC100 Vコンセントに接続してください。

SIGNAL GND

(雑音低減用)

この端子は他の音響機器などを接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

外部出力ピンジャック

増設アンプの入力に接続してください。

アンプ入力ピンジャック

本機を増設アンプとして使用する場合に、他のアンプのライン出力に接続してください。本機の入力とミキシングされます。

録音出力ピンジャック

カセットデッキの録音入力に接続してください。

CD入力ピンジャック

CDプレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器はL/Rチャンネルに関係なく、モノラル機器はどちらかのジャックに接続してください。マイク1放送時には、このCD入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「アナウンスミュート回路について」をご覧ください。

外部3入力ピンジャック

カセットプレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器はL/Rチャンネルに関係なく、モノラル機器はどちらかのジャックに接続してください。マイク1放送時には、このテープ入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「アナウンスミュート回路について」をご覧ください。

マイク6入力ジャック

マイク1放送時には、このマイク6入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「アナウンスミュート回路について」をご覧ください。

非常時音声遮断、電源起動

(10、11ページの説明参照)

100系入力端子カバー

このカバーを取りはずすと内側に端子台があります。100系入力やチャイム起動入力を本機に接続される時は、この端子カバーをはずしてください。接続が終われば必ずこのカバーを取付けてください。
(6ページ「端子カバーのはずし方」参照)

アナウンスミュートレベル調節つまみ

右回りで減衰量が大きくなり、左回りで減衰量が小さくなります。左回しきり位置では減衰量が「0」になります。6ページの「アナウンスミュート回路について」をご覧ください。

100系入力レベル調節つまみ

100系入力の音量を調節します。右回りで増幅され、左回りで減衰されます。

マイク1入力ジャック

マイク2入力ジャック

外部1/マイク3切換スイッチ

接続する機器のレベルに合わせて設定してください。

外部1/マイク3入力ジャック

チューナーやミキサーなどの外部機器、またはマイクを接続してください。

外部2/マイク4切換スイッチ

接続する機器のレベルに合わせて設定してください。

外部2/マイク4入力ジャック

チューナーやミキサーなどの外部機器、またはマイクを接続してください。

マイク5入力ジャック

マイク1放送時には、このマイク5入力の音量は自動的に減衰します。6ページの「アナウンスミュート回路について」をご覧ください。

■各マイク入力ジャックについて

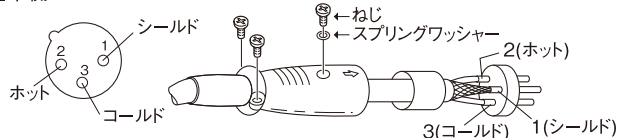
- 本機のマイク1、マイク2、外部1/マイク3、外部2/マイク4、マイク5、マイク6の各入力ジャックはキャノンタイプコネクタ(XLR-3-31相当)です。接続にはキャノンタイプコネクタ、及び6.3φ複式フォンプラグが使用できます。プラグの抜けなどのトラブルを防ぐためにキャノンタイプコネクタの使用をおすすめします。

キャノンタイプコネクタ結線図 (XLR-3-12C相当)

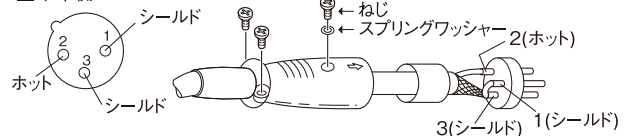


注意 配線を間違えない、ショートさせない。機器の損傷や火災・感電の原因となることがあります。

■平衡



■不平衡



接続のはずし方

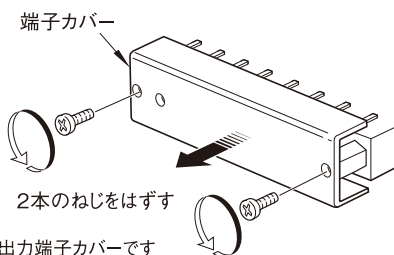


- キャノンタイプコネクタの接続をはずされるときは、本機側のコネクタのラッチを押しながら抜いてください。

■端子カバーのはずし方

- スピーカーや100系入力、チャイム起動入力の本機に接続される時は、端子カバー両端のねじ2本をはずし、カバーをはずしてください。各端子の接続後には必ずカバーを元どおり取付けてください。(図1参照)

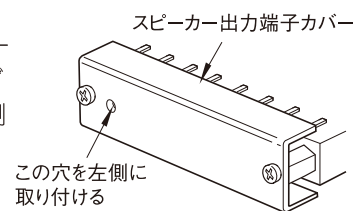
図 1



説明図はスピーカー出力端子カバーです

■ご注意

- スピーカー出力端子カバーをはずされたときは、必ず端子カバーの丸穴が左側になる方向に取り付けてください。

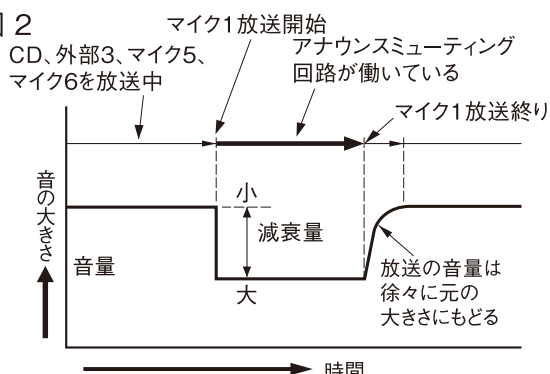


警告 端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

■アナウンスミュート回路について

- マイク1放送時にはCD入力、外部3入力、マイク5入力、マイク6入力の音量が自動的に減衰します。また、放送が終わると自動的に元の音量に戻ります。(図2参照)
- 減衰量は後面のアナウンスミュートレベル調節つまみで調節する事ができます。右へ回すと、減衰量が大きくなり、左へ回すと小さくなります。左回しきり位置では、減衰量が「0」になり、アナウンスミュート回路が働いても放送の音量は下がりにません。(図3参照)

図 2



●アナウンスミュートレベル調節つまみ

図 3 アナウンス ミュートレベル

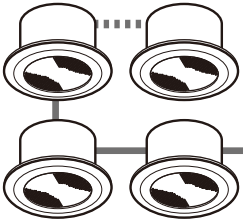


左回しきり(最小)位置で減衰量が「0」になります。

注) 工場出荷時は左回しきり位置に設定されていますので、アナウンスミュート回路が働いてもCD、外部3、マイク5、マイク6の各入力の音量は自動的に下がりにません。それらの放送の音量を下げる場合は必ず減衰量の調節をおこなってください。

接続のしかた

スピーカー（回線1）

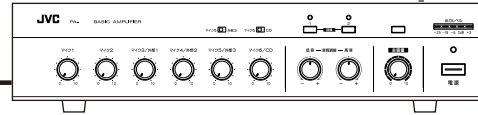


スピーカー出力
回線1へ

スピーカー（増設アンプ）

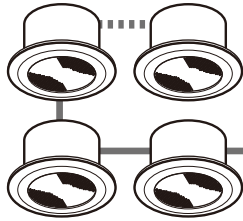


増設用アンプ PA-806



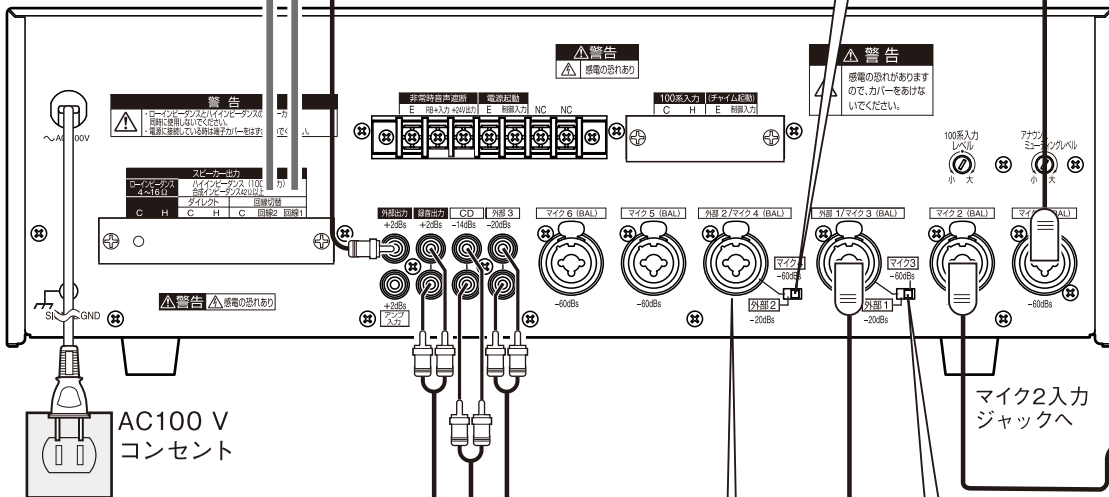
増設アンプ側の
アンプ入力
ピンジャックへ

スピーカー（回線2）



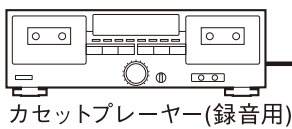
スピーカー出力
回線2へ

外部出力
ピンジャックへ



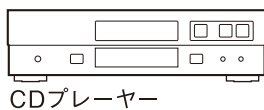
AC100 V
コンセント

録音出力
ピンジャックへ



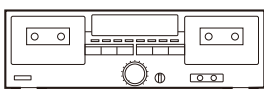
カセットプレーヤー（録音用）

CD入力
ピンジャックへ

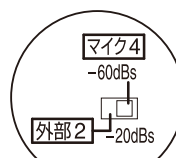


CDプレーヤー

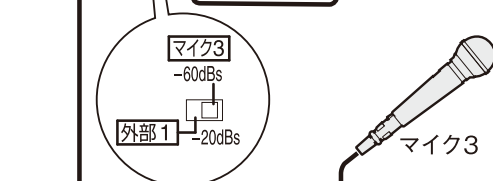
外部3入力
ピンジャックへ




カセットプレーヤー（再生用）




マイク4
-60dBs
外部2
-20dBs



マイク2
マイク3
外部1/マイク3
入力ジャックへ



6.3Φ複式
フォンプラグ



キャノンタイプ
コネクター

マイク1、マイク2、外部1/マイク3、外部2/マイク4、マイク5、マイク6の各入力ジャックの接続にはキャノンタイプコネクター及び6.3Φ複式フォンプラグをご使用ください。プラグの抜けなどのトラブルを防ぐためにキャノンタイプコネクターの使用をおすすめします。

スピーカーの接続のしかた

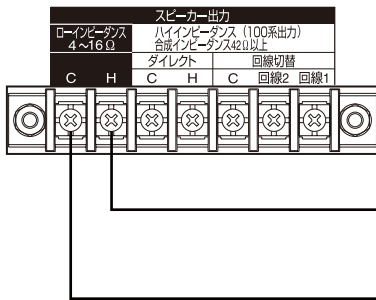
- スピーカーを接続されるときは、背面の端子カバーをはずしてください。
内側に端子台があります。端子台の接続が終われば必ずこのカバーを元どおり取付けてください。



警告

端子カバーをはずすときは、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
ご使用中は、感電の恐れがありますので、端子カバーをはずさないでください。

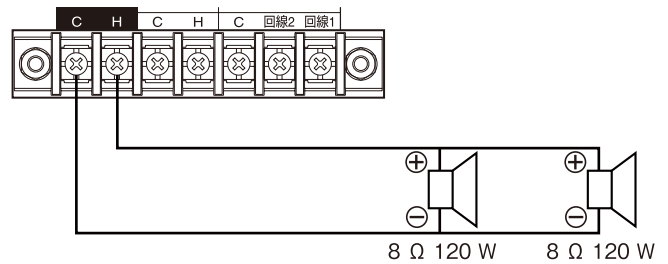
ローインピーダンススピーカーの接続



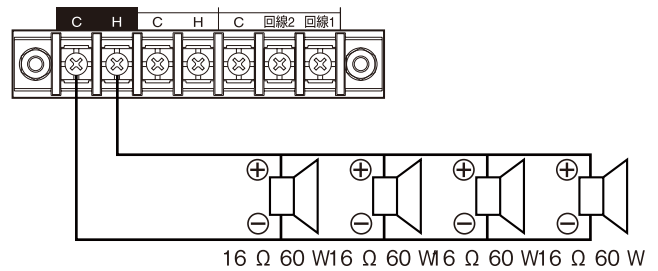
適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
4 Ω~16 Ω	240 W以上

■ローインピーダンススピーカーの接続例

□8 Ω 120 W スピーカー2個



□16 Ω 60 W スピーカー4個



- 特にご注意ください..**
- ローインピーダンススピーカーとハイインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
 - 多数のスピーカーを接続するときは、全スピーカーの合成インピーダンスが4 Ω以下にならないようにしてください。

■スピーカー配線材の太さと配線可能距離のめやす

芯線の太さ	φ0.9 mm	φ1.0 mm	φ1.2 mm	φ1.6 mm	φ2.0 mm	φ2.6 mm
距離	7 m	10 m	13 m	23 m	40 m	60 m

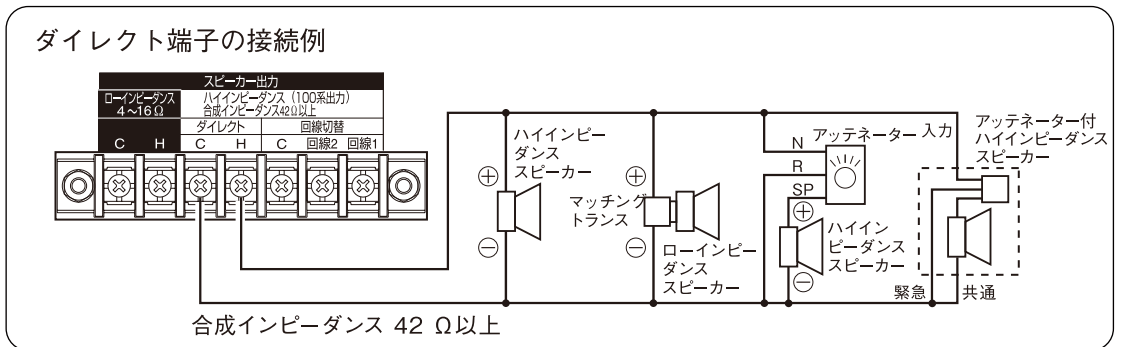
ハイインピーダンススピーカーの接続

- 接続できるスピーカーは下表のとおりです。

適合負荷インピーダンス	スピーカーの必要容量
42 Ω 以上	スピーカー(トランス付)の合計容量が240 W以内

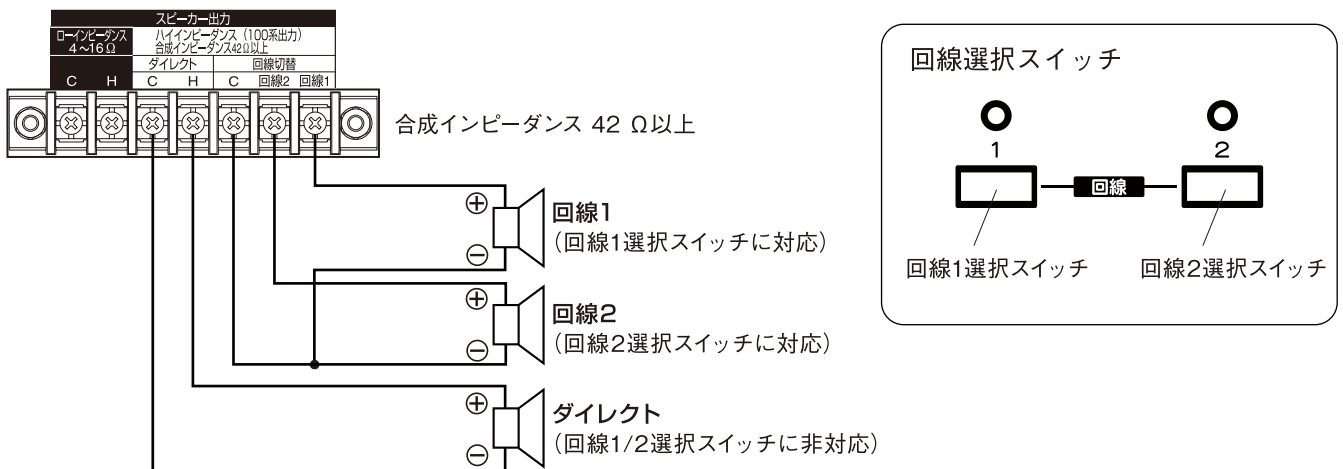
①1系統で放送する場合

- ダイレクト端子は回線1及び回線2の選択操作にかかわらず出力されます。



②系統別で放送する場合(回線選択スイッチ使用時)

- 回線1及び回線2の選択スイッチ押すと、ハイインピーダンス出力の回線1及び回線2に出力します。



- 特にご注意ください..**
- スピーカーの合成インピーダンスが、アンプの適合インピーダンスより小さくならないようにしてください。
 - スピーカーの合計W数はアンプの定格出力以下にしてください。
 - ハイインピーダンススピーカーとローインピーダンススピーカーを同時に使用することはできません。
 - 感電に注意! 出力端子には、定格出力時に約100 V(出力42 Ω)の電圧がかかります。

■スピーカー配線材の太さと配線可能距離のめやす

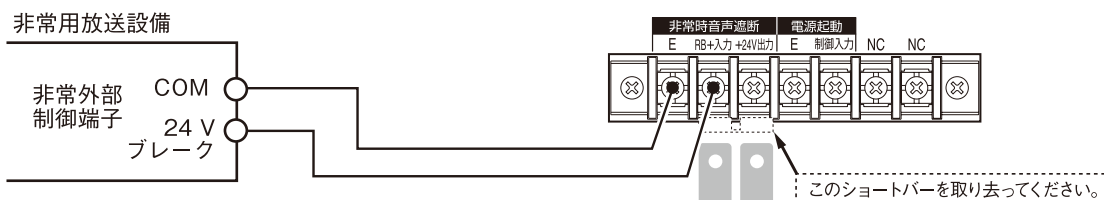
芯線の太さ	φ 1.0 mm	φ 1.2 mm	φ 1.6 mm	φ 2.0 mm
延長距離	90 m	140 m	250 m	380 m

非常時音声遮断について

- 非常用放送設備からの信号（常時DC24 V受電、非常時遮断または非常時無電圧ブレイク接点）で非常時に本機の電源を「切」にすることができます。

常時DC24 V受電、非常時遮断の場合

- ①本機の端子台の「RB+入力」-「+24 V出力」間のショートバーを取りはずしてください。
- ②非常用放送設備の非常外部制御端子の「24 Vブレイク」を本機の「RB+入力」[E]と図のように接続してください。



非常时无電圧ブレイク接点の場合

- ①本機の端子台の「RB+入力」-「+24 V出力」間のショートバーを取りはずしてください。
- ②非常用放送設備の非常外部制御端子を本機の「RB+入力」+「+24 V出力」と図のように接続してください。

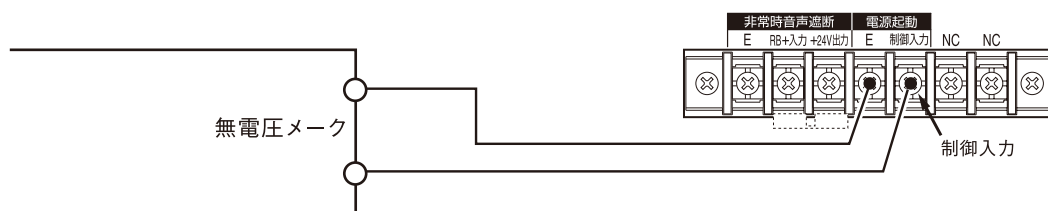


ご注意

非常時音声遮断の使用時以外は、ショートバーをはずさないでください。はずすと電源が入りません。

電源起動について

- 無電圧メーク接点制御方式により外部より本機の電源制御がおこなえます。

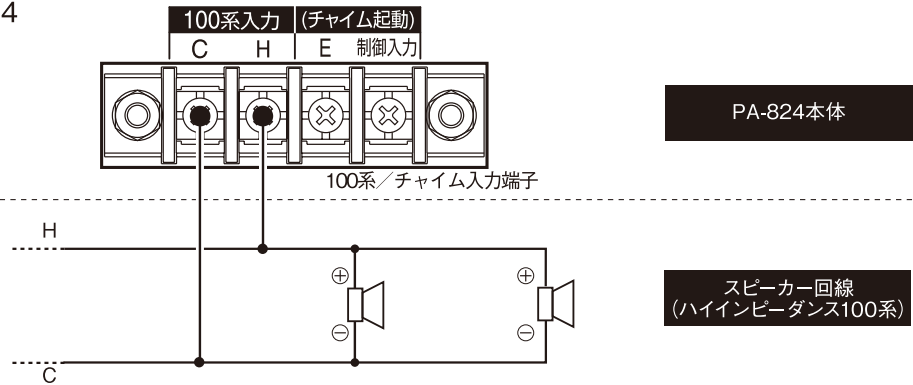


100系入力端子について

- 100系入力に100系スピーカー回線を接続される場合。
 - ①背面の100系入力端子カバーを6ページの「端子カバーのはずし方」の要領ではずしてください。
 - ②図4のように配線してください。
 - ③100系入力端子カバーを元通り取付けてください。

■スピーカー回線（ハイインピーダンス100系）との接続方法

図 4



別売4音チャイムユニット (DM-4) の取り付けについて

- 4音チャイムユニットの取付は、お買い上げの販売店またはJVCケンウッドサービス窓口にご相談ください。
- ①本機のカバー取付ねじ (M4×8バインドねじ) 9本 (両側面8本、天面1本) をはずし、カバーを取りはずしてください。
(注) はずしたねじは取付作業終了後に使用しますので紛失しないようご注意ください。
- ②チャイムユニットを本機のチャイムユニット取付部のねじ穴 (3箇所) にチャイムユニットに付属のねじ (M3×6バインドねじ) 3本を使用し取り付けてください。(図5、6参照)
- ③チャイムユニットの接続コネクタを本機の電源リレーユニット基板上的チャイムユニット接続コネクタに接続してください。(図5、6参照)
- ④本機のカバーをもとどおりに取り付けてください。(取付ねじは必ず、①ではずしたねじ (M4×8) を使用してください。)
- ⑤前面パネルのチャイム用押しボタンの上部にチャイム表示シール (チャイムユニットに付属) を貼ってください。(図7参照)
- ◎その他ご使用方法などの説明は4音チャイムユニットの取扱説明書をご覧ください。



警告

以下の作業は、電源コードを抜いてから行ってください。

図 5

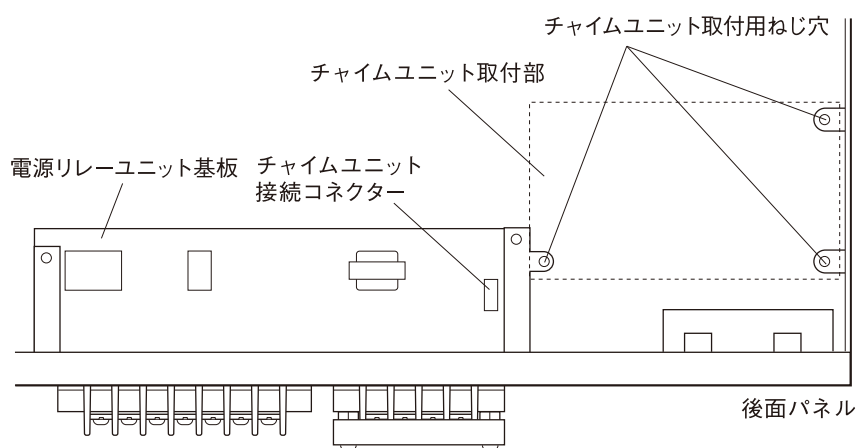


図 6

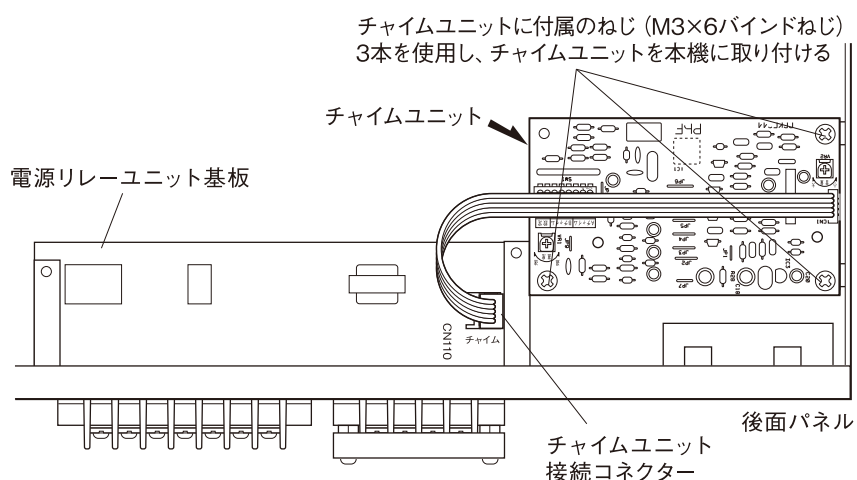
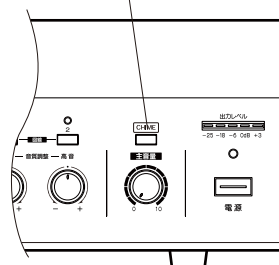


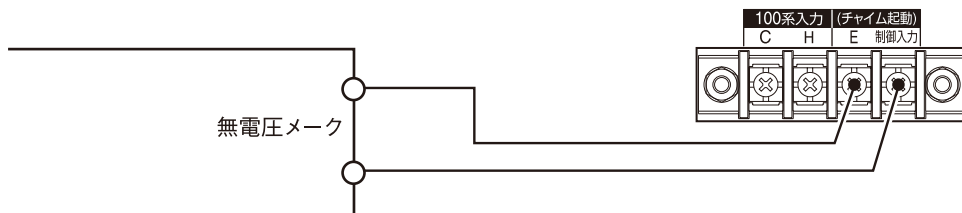
図 7

チャイム表示シール (チャイムユニットに付属) を貼付ける



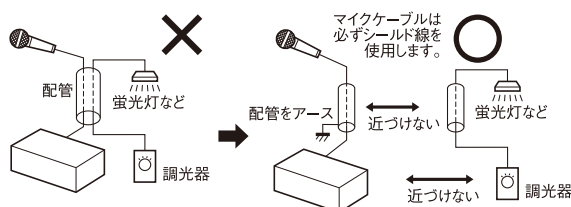
(チャイム起動) 端子について

- 無電圧メーク接点制御方式により、外部よりチャイム起動スイッチと同じ制御がおこなえます。配線時は背面の100系入力端子カバーを、6ページの「端子カバーのはずし方」の要領ではずしてください。配線後は100系入力端子カバーを元通り取付けてください。



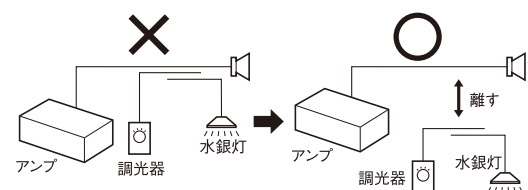
ノイズ対策について

外来ノイズの影響を受けないために、配線については次のような点にご注意ください。



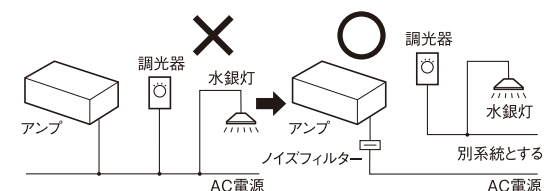
◆マイクケーブル等の入力線のノイズ対策

調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし、離して布線してください。



◆スピーカー線のノイズ対策

スピーカー線は調光器、水銀灯などの系統線とは離して布線してください。



◆電源のとりかた

電源は調光器、水銀灯などの系統とは必ず別にしてください。それでも不十分な場合はアンプへのAC100V電源線にノイズフィルターを入れてください。

◆携帯電話の使用について

本機の近傍で携帯電話を使用しますと、雑音発生の原因になります。本機を使用中に携帯電話を使用される場合は充分ご注意ください。



警告

- 上記の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- 本機のカバーは絶対に開けないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

困ったときには

困ったときには、修理を依頼する前に以下の点をご確認ください。



警告

- 次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。
- 本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は、必ず販売店などにご依頼ください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない。	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適切な音量に調節してください。
	本機の温度が異常に高くなっていませんか。	温度保護回路が働いている可能性があります。 本機の電源を切り、しばらくしてから入れ直すか、音量調節つまみで適切な音量に調節してください。
有線マイクの音声 がでてこない。	(非常時音声遮断の使用時以外) 背面のショートバーが外れていませんか。	P10のご注意をご覧のうえ、ショートバーを正しく接続してください。
	マイクのトークスイッチは入っていますか。	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
スピーカーから音 が出ない。	マイク音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適切な音量に調節してください。
	スピーカーは確実に接続されていますか。	確認してください。
	ご使用の入力の音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適切な音量に調節してください。
音がわる。	スピーカーを回線1または回線2に接続している状態で、回線1選択スイッチまたは回線2選択スイッチがOFFになっていませんか。	P4をご覧のうえ、回線1選択スイッチまたは回線2選択スイッチをONにしてください。
	出力レベルメーターの赤色LEDが常時、点灯していませんか。	赤色LEDが常時、点灯しないように音量を調節してください。 P5をご覧のうえ、背面の外部1/マイク切換スイッチまたは外部2/マイク切換スイッチを接続した機器に合わせて切り換えてください。
音質がおかしい。	各音質調節(低音、高音)つまみが正しく調節されていますか。	音質調節つまみの説明をよく読んで調節してください。
雑音がでる。	本機やスピーカーコード、マイクコードなどがノイズを発生する機器の近くにありませんか。	ノイズを発生する機器から遠ざけてください。
接続機器の音が でない。または小さい。	接続機器及び本機側の入力音量調節つまみが「0」位置になっていませんか。	適切な音量に調節してください。
	接続した機器の出力レベルと切換スイッチの設定は合っていますか。	P5をご覧のうえ、背面の外部1/マイク切換スイッチまたは外部2/マイク切換スイッチを接続した機器に合わせて切り換えてください。

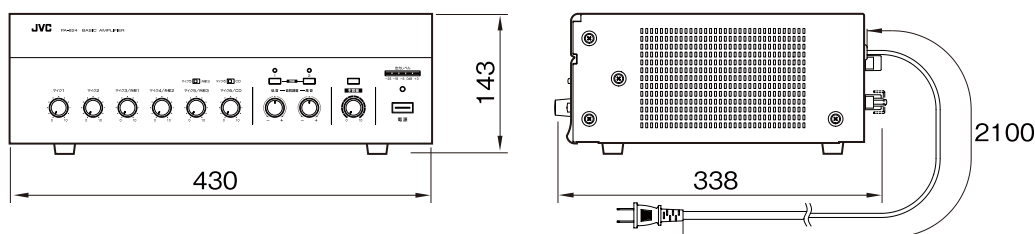
仕様

※本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

品番	PA-824
使用電源	AC100 V 50 Hz / 60 Hz
定格消費電力	330 W (電気用品安全法による測定方法に基づく)
消費電流	AC 7.6 A (定格出力時)
定格出力	240 W
出力負荷インピーダンス	42 Ω (ハイインピーダンス100系) 4 Ω~16 Ω (ローインピーダンス)
外部出力	+2 dBs 600 Ω 不平衡
録音出力	+2 dBs 600 Ω 不平衡
ひずみ率	1 %以下 (ライン1 1 kHz 定格出力時)
周波数特性	50 Hz~20 kHz 偏差±3 dB (ライン1 定格出力-10 dB時)
音質調節	低音:100 Hzに於いて±10 dB (1 kHz基準) 調節器付 高音:10 kHzに於いて±10 dB (1 kHz基準) 調節器付
入力感度及びインピーダンス	マイク1: -60 dBs 600 Ω 電子平衡 音量調節器付 マイク2: -60 dBs 600 Ω 電子平衡 音量調節器付 マイク3: -60 dBs 600 Ω 電子平衡 外部1: -20 dBs 10 kΩ 電子平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 マイク4: -60 dBs 600 Ω 電子平衡 外部2: -20 dBs 10 kΩ 電子平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 マイク5: -60 dBs 600 Ω 電子平衡 外部3: -20 dBs 10 kΩ 不平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 マイク6: -60 dBs 600 Ω 電子平衡 } 音量調節器付 スイッチ切換 CD: -14 dBs 10 kΩ 不平衡 アンプ: +2 dBs 600 Ω 不平衡 100系: 約100 V 20 kΩ 平衡 音量調節器付
信号対雑音比	60 dB以上 アンプ入力 85 dB以上
スピーカー回線選択	2回線 LED表示
動作表示	電源表示灯: LED (緑)、回線選択: 緑×2、5ポイントレベルメーター: LED (緑×3、黄×1、赤×1)
使用温度範囲	-10 °C~+40 °C
使用湿度範囲	85%RH以下 (結露なきこと)
非常時音声遮断	DC24 V 10 mA
電源起動	DC24 V 10 mA
付帯機能	非常時音声遮断: 非常用放送設備からの信号により非常時に本機の電源を「切」にできる 電源起動: 無電圧マイク接点制御方式により本機の電源制御が可能 アナウンスミュート機能: マイク1からの信号で外部3、CD、マイク5、マイク6の音量を減衰 減衰量調節器付[減衰量: 最大 30 dB] 4音チャイムユニット (別売) 取付可能
外装	パネル (アルミニウム): マンセルN1 近似色 ブラック 塗装仕上げ ケース (鋼板): マンセルN1 近似色 ブラック 塗装仕上げ
外形寸法	幅430 mm 高さ143 mm 奥行338 mm
質量	約15.3 kg
付属品	取扱説明書 1、安全上のご注意 1、保証書 1
適合品	4音チャイムユニット (DM-4)

外観寸法図

(単位 mm)



保証とアフターサービスについて

保証の記載内容と保存について

この商品には、保証書を別途添付しております。
保証書はお買い上げ販売店でお渡しますので、所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理致します。

サービス窓口

- ・下記URLをご覧ください。
<http://www3.jvckenwood.com/pro/service.html>
- ・カスタマーサポートセンター (045-939-7320)

サービスについてのお問い合わせ先

修理・保守・設置工事については、お買い上げ販売店
または最寄のサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度、各部の接続についてお調べください。
それでも具合が悪いときは、電源プラグを抜いて次のことをお知らせください。

- 機種名 PA-824
- 故障の状態をなるべく詳しく
- ご購入年月日、ご住所、ご氏名、電話番号

この商品を廃棄する場合は、法令や使用する地域の条例に従って適正に処理してください。

JVCケンウッド カスタマーサポートセンター

固定電話  0120-2727-87

携帯電話・PHS  0570-010-114

一部のIP電話など 045-450-8950

FAX 045-450-2308

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ <http://www3.jvckenwood.com/>

株式会社 JVCケンウッド・公共産業システム

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12